

## 災害時外国人支援シンポジウム ～外国人を災害弱者にしないために～



大きな災害が起こった時に、地域でどのように外国人を支援すべきかについて考えるため、2月8日（水）に、大宮ソニックシティ国際会議室で「災害時外国人支援シンポジウム」を開催し、行政関係者や、外国人支援を行っている日本語教室関係者など74名が参加しました。

シンポジウムでは、東日本大震災での実際の支援の様子や、災害時に外国人はどのようなことで困るのかについて講義をしたあと、「外国人を災害弱者にしないために」と題してパネルディスカッションを行いました。パネルディスカッションでは、支援を行う際の注意点や、やさしい日本語での情報提供など具体的な内容について話し合われ、参加者からは「災害時に外国人支援を行うために、どのような準備をすべきかが整理できた」といった感想をいただきました。

- ・ 東日本大震災での外国人支援の事例 (財) 仙台国際交流協会 須藤伸子氏
- 《内容》 ・ 外国人は災害時にどんなことで困るのか (特活) 多文化共生マネージャー全国協議会 時光氏
- ・ 【パネルディスカッション】 外国人を災害弱者にしないために 埼玉大学 中本進一教授、須藤氏、時氏

### 参加者からの感想

- ・ 実際の事例の話聞き大変参考になりました。自治体の規模や外国人住民の構成などが違うため、各自治体でも独自に考えていかなければいけないと感じました。(女性・行政関係者)
- ・ 自治体として、解決すべき問題がいかに多いか自覚できた。話がよく整理されているうえ、実際の体験からの話なので大変参考になりました。(男性・行政関係者)
- ・ 非常に参考になりました。極力、何回も開催してほしいと思います。自治会も参加した多文化共生施策が必要だと思っています。(男性・日本語ボランティア)

## コミュニティー通訳養成講座 <医療編>

「通訳ボランティア入門講座」に引き続き、通訳スキルのレベルアップを目的として、「コミュニティー通訳養成講座<医療編>」を開催しました。

講座では、当協会のボランティア登録及び派遣制度の概要説明に続き、埼玉県における外国人相談の状況について話がありました。

その後、医師・日本大学医学部助教の押味 貴之氏より「医療通訳の心構え」について話を聴きました。まず、実際の通訳事例の寸劇を観て、何がどう問題なのかを参加者同士で話し合いました。講師からは、理想の医療通訳とは「何も足さない 何も引かない 何も変えない」で行う必要があるということや、実際の医師ならではの専門知識からくる診療に関する説明もあり、参加者は知っているようで知らない医学用語などについて多くを学びました。

午後には、各通訳言語に分かれてロールプレイ演習を行いました。まず、外国人患者が病院を訪れた際に必要な「院内案内」を多言語で行いました。ここでは、患者の症状と診療科の関連について考えることができました。続いて、診察室での医師と患者のやりとりを通訳しました。医師がどんな意図で患者に質問をするのかなど、医療面接の基本表現について繰り返しロールプレイを行うことで、実際に医療の現場で通訳を行うためのノウハウを学びました。

今回の講座を通じて、専門的通訳、特に医療分野での通訳に必要なスキルとその学習方法を学ぶことができたのではないのでしょうか。とはいえ、もちろん1日の講座で通訳技術の全てを習得することは不可能です。受講者の皆さんには、是非これを機会に更なる自己学習を継続していただき、今後実際の活動を通じてさらにスキルを磨くことによって、外国人住民の支援活動に御活躍いただきたいと思います。



▲ロールプレイの様子

## グローバルセミナー2012「世界はつながっている」

2月25日（土）、「With You さいたま」において「グローバルセミナー2012 世界はつながっている ～東日本大震災から見てきたもの～」を開催しました。学校の先生方をはじめとする様々な職業の参加者（約60名）からは、「今回の震災に対し、多くの開発途上国を含む国際社会が支援の手を差し伸べてくれたことで、『世界はつながっている』ことを強く再認識した」、「改めて人間の絆の大切さを実感した」とか、「今後も被災地のことを忘れないで、自分の出来ることを続けて行きたい」などの感想が寄せられました。今後の復興を考える上でも、国際社会との関係を一層強化し、お互いを知り（国際理解）、助け合う（国際協力）・協働していくことが求められていくことでしょう。